

アートを楽しむ ー見る、感じる、学ぶ

アーティゾン美術館(京橋) 23.02.25~05.14



当美術館は、美術作品により親しんでいただくために、これまで様々なランニングプランを提供してきたが、本展は、こうしたプログラムの成果をもとに、所蔵作品の中から厳選した作品を、“ひと味違った展示方法により楽しんでいただく企画”での開催である。

<今回の3つのセクションの構成>

1. 「肖像画のひとコマー絵や彫刻の人になってみよう」
2. 「風景画への旅ー描かれた景色に浸ってみよう」
3. 「印象派の日常空間ー近代都市パリに行ってみよう」

ベルト・モリゾ 《バルコニーの女と子ども》1972年 油彩/カンヴァス 上図
画伯は印象派グループの数少ない女性画家のひとりで、女性的な感受性で描かれる母子や子どもなどを主題としたこの作品は、男性の視点ではなかなか見ることのできない繊細さと穏健さを生み出している。素早く活気のある筆づかいながら、細部までが決め細やかに描かれている作品である。



クロード・モネ 《黄昏、ヴェネツィア》1908年頃
油彩/カンヴァス

アンリ・マティス 《青い胴着の女》 1935年 油彩/カンヴァス

1930年代の画伯は、平面的な色彩構成を追求して画面の単純化を押し進め、本作品では黒い輪郭線で囲まれた赤、青、黄の3色が巧みに配されている。

モデルの椅子に腰掛けた女性の肩は大きく誇張され、腰は極端に細く表現されている作品である。